訪日クルーズ船客を対象とした滞在時間の変化による観光地の訪問意識に関する研究

高知工科大学　学生会員　○西村　滉平　正会員　西内　裕晶

１．背景と目的

高知県はクルーズツアーの燃料・物資補給の観点から好位置にあり，平成26年には連続した大水深岸壁の整備により高知新港での大型外航クルーズ船の受け入れ環境が整備されたため，大型外航クルーズ船の来航が急増し，それに伴い，訪日クルーズ船客が増加している．さらに平成31年3月には高知新港客船ターミナルがオープンし受け入れ環境は向上している．今後も複数のクルーズ客船の同時接岸が可能になるなどの整備を進めていくため大型外航クルーズ船の来航は増加していくと予想される．

また高知県では四国8の字ネットワーク整備により高速道路の延伸整備が進められており，様々な観光地へのアクセスが容易になると共に，観光地での滞在時間を増加することができる．

以上のように今後も高知県のクルーズ市場は拡大し，観光地での消費額も増加していくと予想される．しかし具体的に訪日クルーズ船客がどういった観光地域にニーズや希望を持っているかという知見がなく，高知県の観光地域を最大限に活用しきれていないのが現状である．したがって，訪日クルーズ船客からみた観光地域の価値を把握することが，高知県の観光振興につながる．

そこで本研究は，高知県に来航する大型外航クルーズ船を対象とした，訪日クルーズ船客からみた観光地域の価値評価をすることを目的とする．

２．アンケート調査

本研究は観光地の価値評価するためにアンケート調査を実施した．アンケート調査概要を表-1 に示す．

表-1　アンケート調査概要

項目	内容
対象者	オプショナルツアー参加者/自由行動者
調査日時	2019年8月18日,9月13日,11月13日
回答方法	web回答
配布枚数	583
回答数	51
有効回答数	38
調査項目	SP調査
	個人属性

(1)　SP調査アンケートの作成

アンケート方法はSP(Stated Preferences)調査アンケートを採用した． SP調査アンケートとは仮想的な状況下での選好意識を尋ねる調査手法である．SP調査アンケートの内容は，仮想ツアーの説明をしたのちに仮想ツアーへの参加意思，希望滞在時間，支払い意思額を回答して頂く形式である．高速道路整備により移動時間が短縮する地域を対象として仮想ツアーを作成した．具体的には現在のオプショナルツアー(特定の地域を観光バスで巡るもの)で観光されていない中村・嶺北地域，現在オプショナルツアーで観光されている室戸地域の計3地域とした．仮想ツアーに含む観光地は，倉知[1]の研究で，高知県に来航した訪日クルーズ船客は「自然・景勝地」・「歴史的建造物」・「繁華街」に強い期待度を持っていることが明らかにされていることから，「自然・景勝地」・「歴史的建造物」・「繁華街」を中心にツアーを設定した．

３．アンケート調査結果

個人属性の回答は「性別」では女性が7割以上，「年齢」は50・60代の割合が全体の約5割，「国籍」はアメリカが最も多く全体の約3割を占めた.「職業」は退職者の割合が最も高く約3割となり「同伴者」はパートナーが7割以上を占め，「高知県への来訪回数」は9割以上の方が初めてであった．

表-2　SP 調査アンケートの結果

地域	支払い意思額(円)			希望滞在時間(分)			ツアー参加希望率(%)
	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	
中村地域	540	21,600	8,537	30	360	140	63
嶺北地域	540	37,800	8,971	20	360	130	79
室戸地域	1,080	32,400	11,033	10	370	150	50

SP調査の回答結果を表-2に示す．ツアー参加希望率は室戸地域が最も低い結果となったが，支払い意思額・希望滞在時間の平均値は嶺北・中村地域を上回る結果となった．

キーワード　大型外航クルーズ船，オプショナルツアー，SP 調査アンケート，仮想市場評価法

連絡先　〒782-8502　高知県香美市土佐山田町宮ノ口 185　高知工科大学　都市・交通計画研究室

4．仮想市場評価法(CVM)による観光地域価値分析

(1)　参加希望率の考察

調査で得られた支払い意思額及び希望滞在時間の結果を基に，仮想市場評価法(以下 CVM)[2] を用いて参加率の近似曲線を作成した．図-1・図-2 に作成した近似曲線を示す．

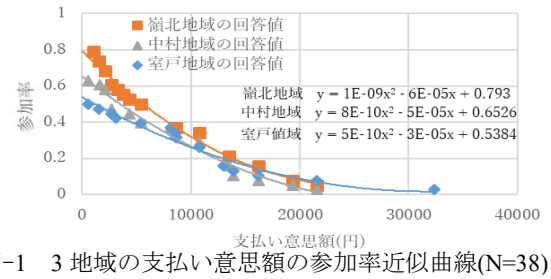

図-1　3 地域の支払い意思額の参加率近似曲線(N=38)

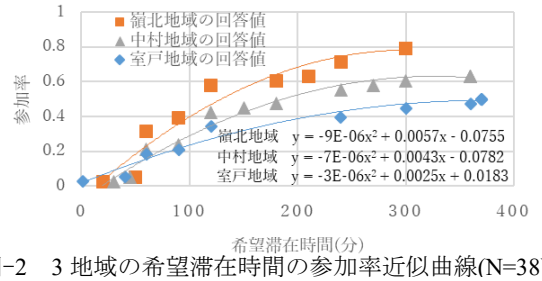

図-2　3 地域の希望滞在時間の参加率近似曲線(N=38)

図-1より，嶺北地域は他の地域よりもツアー代金を安くすることで，高い参加率を見込めることが分かる．一方で，室戸地域では支払い意思額が他よりも高いため，他の地域に比べて少人数ではあるものの，室戸地域ツアーに含んだ観光地を好む人には高額でも参加の可能性があるといえる．

図-2より，3地域の希望滞在時間は滞在時間が長くなると，参加率の差が広がる結果となったが，その原因としては，各地域ツアーでの観光地の内容に違いがあるためだと考えられる． 室戸地域では海に関する自然体験を観光地に複数含んだ仮想ツアーを作成したが，クルーズで海を堪能している訪日クルーズ船客にとっては魅力的でなかったため最も参加率が低い結果となったと推測できる．しかし，室戸地域は最も長い滞在時間を希望していることから海に関する自然体験を好む人には長い滞在時間を設定することで参加の可能性があるといえる．嶺北・中村地域では海以外の自然体験のほかに歴史や食事に関するものを含み，日本文化を堪能できるツアーに設定したことが室戸地域の参加率を上回る要因だと考えられる．

(2)　支払い意思額及び希望滞在時間の代表値設定

CVM分析に使用する支払い意思額及び希望滞在時間の代表値は参加率近似曲線の参加率が0.5となる部分とした．算出結果を表-3に示す．

表-3　支払い意思額及び希望滞在時間の代表値

地域	支払い意思額(円)	希望滞在時間(分)
中村地域	3,218	199
嶺北地域	5,363	126
室戸地域	1,309	303

算出結果より，嶺北地域は，3地域の中で最も高い支払い意思額となり希望滞在時間は最も短くなった．一方，室戸地域は最も支払い意思額が低く，希望滞在時間は最も長くなり2地域は異なる傾向を示した．前述より，地域の特性にあった料金・滞在時間の設定がツアーづくりに重要であるといえる．

5．各観光地域の価値算出

観光地域価値は各地域の支払い意思額の推定結果に地域ツアーへの参加希望人数を乗じる一般的な手法を用いて算出した．表-4に算出結果を示す．

表-4　3 地域の観光地域価値

地域	支払い意思額(円)	参加希望人数(人)	観光地域価値(円)
中村地域	3,218	24	77,232
嶺北地域	5,363	30	160,890
室戸地域	1,309	19	24,871

表-4より，嶺北・中村地域の価値が室戸地域を上回る結果となった．その要因として，室戸地域ではアクティビティで自然を体験するのに対し，嶺北・中村地域では自然を見るといった自然の観光方法に違いがあったためと考えられる．また移動時間が長いほど観光地域価値が低くなっているため，高知新港から観光地域までの距離の違いが，観光地域価値の差に出ると考えられる．

6．まとめと今後の課題

本研究では，高速道路整備によって提案可能になる観光地域の，訪日クルーズ船客からみた観光地域価値を評価することができた．今後の課題としては，他の観光地域を対象とした場合の価値評価を行い地域による違いや，今回の結果の信頼性を向上させる必要がある．

参考文献

1)　倉知綾子：観光マーケティングに基づく訪日クルーズ船寄港地観光の需要分析，立命館大学学士論文(2019.2)
2)　栗山浩一：Excel でできる CVM Version4.0〈http://kkuri.eco.coocan.jp〉，　2019 年 12 月参照